

設置目的と機能

設置目的

本館は、文化人類学・民族学に関する調査・研究をおこなうとともに、民族資料の収集・整理・公開などの活動をすすめて、世界の諸民族の社会と文化に関する情報を人々に提供し、諸民族についての認識と理解を深めることを目的としています。なお、本館は、大学共同利用機関として、国立学校設置法の一部を改正する法律(昭和49年法律第81号)により設置され、平成16年4月に国立大学法人法(平成15年法律第112号)により大学共同利用機関法人・人間文化研究機構の一員として新たな出発をしました。

機能

研究所 本館は博物館機能をもった研究所です。文化人類学・民族学を核とする隣接諸分野の研究をおこない、我が国の文化人類学・民族学研究のセンターとしてその機能を十分に発揮すると同時に、研究の成果を出版その他さまざまな形で公開し、研究者コミュニティと一般市民への情報提供と研究広報をおこなっています。本館の研究者は、文化人類学・民族学や言語学、民族技術、民族芸術などを専門とするスタッフで構成されています。

共同利用 本館は大学共同利用機関として、研究者コミュニティに支えられた共同研究をおこなう開かれた研究所です。また、収集・保管する資料は研究のために広く利用されています。

情報センター 研究に基づき、諸民族の生活を知るための標本資料、諸民族の社会と文化に関する映像・音響資料、文献図書資料、HRAF (Human Relations Area Files)などの諸資料を収集し、幅広い研究のための基礎的な資料や情報の整備をおこなっています。これらに関する情報を、コンピュータを活用したデータベースの構築を通じて館内はもとより館外の研究者へ提供しています。

展示公開 研究の成果を展示を通じて公開しています。本館の研究者は、展示についての企画や実施にも参加しており、研究と展示の緊密な連携を基本方針としています。本館展示は、世界の諸民族の文化と社会を大きく地域ごとに分けた地域展示と、音楽、言語などの人類文化に普遍的に見られる諸現象を対象とした通文化展示で構成されています。また、急速に変化する世界の動きや、文化人類学・民族学の研究を迅速に展示に反映させるため、本館展示場内で企画展示も実施しています。さらに、特定のテーマについて、総合的および体系的に紹介する特別展示を開催しています。

社会還元 最先端の研究成果を一般に公開するため、学術講演会、みんぱくゼミナール、みんぱくウィークエンドサロン、研究公演、みんぱく映画会などをおこなっています。また、博物館学集中コースやさまざまなプロジェクトを通して国際協力に貢献しています。

大学院教育 大学共同利用機関を基盤として設置された総合研究大学院大学の文化科学研究科(地域文化学専攻・比較文化学専攻、ともに博士後期課程)がおかれ、高度の大学院教育をおこない、創造性豊かな研究者を育成しています。また、諸大学の要請に応じてそれぞれの大学院教育に協力し、研究指導をおこなっています。



大学のためのみんぱく活用マニュアル

本館の研究・展示、所蔵資料および施設などを大学教育に広く活用していただくための利用手続きです。展示や図書室および標本資料の利用方法など幅広い内容を網羅しており、大学関係者に教育の場としてみんぱくの利用をすすめるものです。